

年度政策実施成果

活力あふれる創造力

研究開発力はハイテクノロジー産業が必要として最大の競争力であり、園区内企業が研究開発に専念できるように、2001年から研究開発計画奨励補助が予算として編纂され、企業の研究開発を推奨している。2001・2002・2003年と2004年それぞれ8・7・10と14件補助許可され、補助総金額それぞれ6,720万円・7,680万円・7,680万円と11,712万円となり、更に、企業に研究開発資金として毎年17,571万円・14,512万円・20,329万円と22,698万円もの投資を促す効果を得た。

南科企業が専門技術者の育成を促し、研究開発力を培わせるため、毎年オプトエレクトロニクス・集積回路・バイオテクノロジー・通信情報やその他教育カリキュラムを組み、2004年では計1,649人回が参加された。この他、中華民国南部科学園区産業学術協力協会がバイオテクノロジー・集積回路・オプトエレクトロニクスと通信情報、4つの広報委員会の設置を進めており、学术界と園区企業との技術人材交流を図る。

国家高速ネット電算機器センター・国家ウエハシステムデザインセンター・国家ナノテクノロジー実験室・工研院南科院区・中正大学創新研究開発センターと成功大学研究開発センター等が続けて園区に駐在し、2004年中央研究院南部バイオテクノロジー企画センター・国家実験動物センター南科センターと通信情報技術センター等3社が続けて駐在を決定し、安定した技術サポートと公共資源の共用を実現した。

国家実験動物センター南科センターの機能は、実験動物の繁殖の他に、企業や研究開発機構に薬品使用の安全性・毒物処理・薬物活性化テスト・薬物動力学等様々な応用的な機能、または、ソフト面ハード面においても国際レベルに達した動物実験施設を設置計画しており、企業が行う各種動物実験の場を提供していく。2004年細部にわたる設計企画が完成され、2007年に完成予定である。

中央研究院南部バイオテクノロジー企画センターは2004年に設置計画され、2005年1月28日南科にて正式に運営し始める。主要な研究開発企画は、植物や農産物の付加価値増加計画・植物耐性増加計画・植物ナノ農場の研究や植物の鮮度維持研究等である。必ず南科周辺の実験田畑・動物実験センターと共に資源の共有等を促せることで、バイオテクノロジー産業の優れた投資環境を形作ることになろう。

通信情報技術センターは、2004年5月に高雄園区標準型工場に駐在し始めた。電子通信・情報通信の安全に関する前進的な研究や技術移転・企業間協力などを推し進め、通信情報産業と全体的な経済の発展を促していくであろう。高雄園区が優れた通信情報園区となり、「国内検証一回、世界との障害なし」の相互認証性を目指し、企業の検証コストと時間を節約させ、わが国の電子通信生産品の国際競争力を上げる。

